

中経連

3・4

2022 March・April

Vol.358

未来につなぐ
地域の文化

韮山反射炉



上記写真は韮山反射炉保存修理工事(2020年10月～2021年10月)以前に撮影されたものです

IZUNOKUNI

千字
万感

国立大学法人信州大学
学長
中村 宗一郎

特集

中経連創立70周年特集
この10年の活動を振り返る
交通インフラの整備促進

- 提言書：カーボンニュートラルの実現に向けた経済社会の変革
- Chubu DX最前線：『町工場改革』に挑む ～IoTではじめた旭鉄工のDX～
- 環境とイノベーションの未来
- 名古屋市・愛知県との懇談会
- 地域会員懇談会



一般社団法人

中部経済連合会

CONTENTS

1 千字万感

信州大学の存在意義

国立大学法人信州大学 学長 中村 宗一郎

2 提言書：カーボンニュートラルの実現に向けた経済社会の変革

4 環境とイノベーションの未来

5 名古屋市・愛知県との懇談会

6 地域会員懇談会

8 委員会活動

10 最近の要望活動

11 中経連ダイジェスト



環境とイノベーションの未来 (P4)

16 中経連創立70周年特集 この10年の活動を振り返る

交通インフラの整備促進

20 Chubu DX最前線

『町工場改革』に挑む ～IoTではじめた旭鉄工のDX～

25 Garage Nagoya Topics

28 新入会員紹介

協和ケミカル(株)／(株)ハイパーブレイン／(株)ハルカホールディングス／(株)八神製作所

32 中部圏主要経済指標

表紙 | 未来につなぐ地域の文化

葦山反射炉 (静岡県伊豆の国市、写真提供：伊豆の国市)

1853年のペリー来航により、海防の必要性を建議していた葦山代官の江川英龍は、幕府の命を受けて大砲を铸造する溶解炉の建造に取り組むこととなりました。当初下田で着工された炉は、ペリー艦隊の水兵が敷地内に侵入する事件を受けて葦山に移転。大型の大砲を铸造するため、2つの溶解炉を連ねたうえでその2組を直交させる4つの炉を持つ反射炉の建造は、非常に困難な事業となりました。1855年に英龍が病により逝去したことから、



保存修理工事終了後の葦山反射炉

息子の英敏が事業を引き継ぎ、1857年に着工から3年半の歳月をかけてようやく完成。幕府直営反射炉として、18ポンドカノン砲などの西洋式大砲の铸造が行われ、1864年にその役目を終えました。2015年には日本の近代化を支えた遺構、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として世界遺産に登録されました。

参照：伊豆の国市ホームページ、静岡県観光公式サイト「ハローナビしずおか」